

1 題材名 おまつりの音楽

2 本題材の目標

- (1) 音やフレーズのつなげ方の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能を身に付ける。〔知識及び技能〕
- (2) リズムや拍を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように音を音楽にしていくかについて思いをもつ。〔思考力、判断力、表現力等〕
- (3) 太鼓のリズムをもとに音楽をつくることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組み、和太鼓による音楽に親しむ。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 指導事項との関連

A表現(3) ア(イ)、イ(イ)、ウ(イ) 〔共通事項〕(1)ア

本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：リズム、拍

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①知：音やフレーズのつなげ方の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付いている。 ②技：思いに合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能を身に付けている。	思①：リズムや拍を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように音を音楽にしていくかについて思いをもっている。	態①：太鼓のリズムをもとに音楽をつくることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。

5 題材について

(1) 題材観

これまで、歌に合わせてリズムを打ったり、リズムに言葉を当てはめて歌ったりすることで、楽しみながら、リズムが生み出すよさや面白さを感じ取ることができるよう支援してきた。また、音の長さや手拍子の動きを結び付け、音の長さを体感できるようにしてきた。そこで本題材では、これまで経験してきた口唱歌や手拍子でマイリズムをつくり、友達とつなげることで、おまつりの音楽づくりを行う。口唱歌や手拍子による音楽づくりを通して、思いに合った表現をする力を育んでいきたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、これまで、音符や休符の長さについて学習し、さらに、手拍子リレーやどうぶつフラップをすることで、友達との音楽づくりに取り組んできた。リズムや拍についての児童の実態調査の結果から、多くの児童が、リズムによって音楽を表現したり鑑賞したりすることを楽しいと感じており、体を動かしながらリズムや拍の流れを感じ取るよさを挙げている。一方で、楽しいと思わないと答えた児童は、リズムをつかむことが難しく、自信をもって表現できないと感じていることが分かった。また、恥ずかしさから、楽しいと感じられない児童も*名いる。簡単なリズムの模倣は、ほとんどの児童ができていますが、楽譜を見て、音の長さに合うリズムを正しく打つことは

難しい児童が*名いる。しかし、「タン」「ウン」などの口唱歌を明記することで、多くの児童が、正しくリズム打ちをすることができた。そこで、本題材では口唱歌を口ずさんで確かめながら、安心して音楽づくりに取り組むことができるようにしていく。

(3) 指導観

本題材では、2拍に限定された数種類のリズムと、それぞれに合う太鼓の口唱歌の言葉を示したカードを用意し、児童一人一人がリズムパターンの組み合わせを考えられるようにする。また、色分けしたマグネットシートに、個々でつくったマイリズムをかき込み、ホワイトボード上で動かせるようにする。いろいろな表現の仕方を試しながら、音楽をつくる楽しさを味わうことができるように配慮し、思いに合った表現をする力の育成を図っていく。そして、児童が自分でつくったリズムや友達とつなげたリズムを、手拍子や口唱歌だけではなく、実際に太鼓を叩く動きをしながら確認できるようにする。新聞紙で自分のバチを作り、椅子を太鼓代わりにすることで、意欲的に活動に向かえるようにしていく。

6 題材の指導計画（7時間扱い）

○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価

次	時	学習内容・活動	知	技	思	態	評価方法・留意点等
1	1 2	「村まつり」の きょくの よさやおもしろさをかんじて、うたい方をくふうしよう。 ・ 範唱を聴き、大まかに曲の感じを捉え範唱に合わせて歌う。 ・ 「村まつり」の意味や、歌詞が表している時系列、様子や気持ちを考える ・ 「ドンドン ヒャララ」の歌い方を工夫する。 たいこや ふえの 音を くふうすると、おまつりの たのしいかんじが あらわせる。	○				○ 態①：お祭りの音楽づくりに見通しがもてない児童には、「村まつり」を歌うことを通して、お祭りの雰囲気を感じ取ったり、身近なお祭りの写真を提示したりしてイメージがもてるようにする。 【観察】 ①知：太鼓や笛の音の歌い方を工夫するとお祭りの気分が変わることに気付くことができるようにする。
2	3 4	いろいろな たいこの 音を たのしもう。 ・ 演奏の特徴を知り、注目して聴く。 「さんざおどりのたいこ」 「つがるじょっぱりだいこ」 「ごんじょだいこ」 「はちじょうだいこ」 ・ 気が付いたことや感じたことを交流する。 日本の たいこには、いろいろな大きさの ものや、いろいろな えんそうの し方がある。	○				○ 態①：太鼓の音に興味をもてない児童には、写真を提示し、太鼓の大きさや演奏者の様子に注目して聴くよう促す。 【発言、記述】 ①知：太鼓の音やフレーズのつなげ方の違いに気付いているかについて見取り、気付いていない児童には前時に聴いた太鼓の演奏と比較して考えるよう促す。 【観察、記述】 ①知【発言、記述】

3	5 6 7 本時	リズムをつないで おまつりの 音がくをつくろう。 ・太鼓のリズムの口唱歌をする。 ・マイリズムをつくって、打つ。 ・グループ（3～4人）でリズムをつなぎ、簡単な音楽にする。 （手拍子＋口唱歌） ・グループで、つくりたいリズムのイメージを話し合う ・踊りたくなるおまつり ・歌いたくなるおまつり ・にぎやかなおまつり など ・友達とリズムをつなげて、音楽をつくる。 ・イメージに合うように、リズムを並べ替えたり、かけ声を入れたりする。 ・グループごとに発表する。 リズムをつなげると、たのしいおまつりの音がくをつくることができた。			○ 態①：太鼓のリズムをもとに音楽をつくる学習活動では、できた児童の発表を聴くことで、まだできていない児童が参考にできるようにするとともに、活動への意欲づけを図る。 【観察、記述】 ○ 思①：どんなお祭りの音楽にするか 思いがもてない児童には、「村まつり」の太鼓や笛をどんなふうに歌ったのか問いかけ、イメージがもてるようにする。 ◎ 思①【発言、記述】 ◎ ②技：思いに合ったお祭りの音楽にするためのリズムになっているかどうかを見取り、できていない児童には、友達の真似をしたり、一緒に手拍子をしたりしてリズムをつなぐことができるようにする。 【実技、記述】 ◎ ②技【実技、記述】 ◎ 態①【観察、記述】
---	-----------------------	---	--	--	--